

海洋島

第8巻 第1号 (通巻49号)

東京都小笠原水産センター

2006年 5月15日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

「小笠原のモクスガニ」が固有種と判明

小笠原のモクスガニは日本本土に生息するモクスガニにくらべ巨大で、ハサミの毛の生え方が違うことなどを本誌 32号 44号で紹介しましたが、千葉県立博物館の駒井智幸博士、水産センターの元研究員山本貴道氏、東京海洋大学の山崎いずみ氏・渡邊誠一教授、および小林 哲博士の研究によりこのカニが今まで正式に命名・記載されたことのない新種であることが判明し、この結果は本年4月にニュージーランドの動物分類学の学術誌 *Zootaxa* に発表されました*。新種の学名はエリオケイル オガサワラエンシス *Eriocheir ogasawaraensis*、和名は論文では記載されていませんが、駒井博士にお聞きしたところオガサワラモクスガニ(新称)を提唱することでした。報告によれば、オガサワラモクスガニは日本本土に生息するモクスガニ *E. japonica* に形態的には良く似ていますが、甲羅の長さに対して幅が広いこと、甲羅の背が平らなこと、第4前側縁歯を欠くこと(図1参照)、雄の交尾器(腹側のいわゆるフンドシを持ち上げると、根元の両側にみえる棒状の器官)が細長いことなどで区別できます。共同研究者の山崎氏、渡邊教授の研究により、遺伝的にもかなり異なることが分かっています。当初、オガサワラモクスガニの特徴かと思われた「雄のハサミの毛が腹側にはない」という形質は、本土のモクスガニでは成長による変異を示す(若い個体ではオガサワラモクスガニ同様、ハサミの腹側に毛がない)ことが分かりました。

オガサワラモクスガニの生態については、産卵期が2~6月と短いこと、産卵期に3回産卵するらしいこと位しか分かっていません。モクスガニ類は川や池に住んでいますが、成熟すると海に下って産卵し、ふ化した幼生は海である程度の大きさまで成長し、再び川に上って来ます。小笠原の川は水量が少なく通常は砂などで河口が塞がっています。海から

川に向かう稚ガニがこの障害をどのように乗り越えるのか、川に上ってからどこに住み何を食べてどんな成長をするのかなど多くの謎が残されています。

現在、オガサワラモクスガニは、弟島、兄島、父島、母島でしか生息が確認されていない小笠原の固有種です。以前は産卵期になると八瀬川近くの道路でたくさん採れたものですが、今では殆どみかけなくなりました。昔から食用にされていますが、今後は貴重な小笠原の固有資源を維持するという視点を持つべきではないでしょうか。

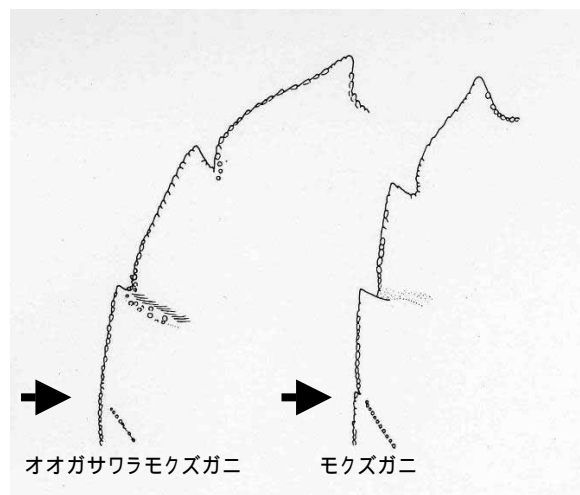


図1 オガサワラモクスガニとモクスガニの第4前側縁歯 Komai et al. (2006)を改変



図2 産卵のために降りてきたオガサワラモクスガニ(小港)

* Komai, T., I. Yamasaki, S. Kobayashi, T. Yamamoto and S. Watanabe (2006) *Eriocheir ogasawaraensis* Komai, a new species of mitten crab (Crustacea: Decapoda: Brachyura: Varunidae) from the Ogasawara Islands, Japan, with notes on the systematics of *Eriocheir* De Haan, 1835. *Zootaxa*, 1168, 1-20.